

有限会社 小川屋園芸

SDGsの取組

取組・活動内容	<p>(有)小川屋園芸では、植物の切りくずを堆肥化し、その堆肥で畑を運営し、育てた作物を店舗で販売する、小さな循環づくりを目指しています。その他、ピンクリボン運動に賛同したフェア、産出額日本一の愛知県のお花をPRする地産地消フェア、廃棄される植物を減らし、植物のある暮らしをサポートする観葉植物のメンテナンスサービス等に取り組んでいます。それらの取り組みを通して、「花やみどりを通して、人々の暮らしを豊かにします。」という理念の実現を目指します。理念で言う「豊か」には物質的→商品、精神的→社会性の二つの側面があり、SDGsへの取り組みを通して社会的意義のある活動を推進し、その結果精神的豊かさを求めています。</p>			
		目指すゴール	取組・活動内容とゴールとの関係	目標
	経済	9-4	<p>花の産出額日本一の愛知県産の切花をPRする地産地消フェアを開催。高値の付きやすい東京や大阪の市場へ出荷されたものではなく、名古屋の市場から仕入れ、輸送による植物のストレスや排出されるCO2の削減を目指す。</p>	<p>毎年11月を「地産地消」月間として店頭にてフェアを開催。愛知県の花き振興計画にも掲載の通り、県内生産者の経営の安定に寄与し、名古屋市での切り花消費額順位を上げる。(27位→20位)</p>
	社会	3-4	<p>毎年10月にピンクリボン運動と連動したフェアやワンデーレッスンを開催。リーフレットを配布し、啓発に努める。</p>	<p>乳がんの早期発見に向けた啓発運動として毎年10月をキャンペーン月間とする。キャンペーンリーフレット100部を配布し、啓発に努める。</p>
環境	12-5, 12-8	<p>生花店運営において生じる植物の切りくず(ゴミ)を堆肥化し、それを用いて畑を運営し、店に還元することで循環をつくり、店舗から出るゴミの量を減らす。同様に廃土の再生にも取り組む。</p>	<p>堆肥化のプロセスを2030年までに確立し、店舗から出るゴミを20%削減する。(畑の運営、廃土の再生は実施中。)</p>	